

令和六年度 中学生の「税についての作文」

柏税務署管内納税貯蓄組合連合会 会長賞

暮らしに欠かせない税金

野田市立福田中学校 第三学年 田村 優莉

私は生活する中で、どうしても税があるのだろうと思うことはあったが、税について深く考えることはなかった。

七月の租税教室で税理士や税について詳しく聞いた。その中の一つが一七七三年に起きた、ボストンティーパーティー事件である。戦争によりお金に困ったイギリス人は、植民地であるアメリカに重い税をかけた。アメリカ人は、当時人気だった紅茶が高くなり買えなくなつたため、東インド会社の船に乗り込み、大量の紅茶を海に投げ捨てた。この事件により、多くのアメリカ人が殺されたり、アメリカが独立するきっかけをつくつたといわれている。私はこの話をきいて、税金がこんなにも生活に影響を与えていることに驚いた。また、今まで税に興味がなかったけど、私たちにも関係があると知り、税についてもっと詳しく知りたいなと思うようになった。

昔、窓の数に応じてかかる窓税や、道に面している長さで払う間口税があった。もちろん高い税を払いたくない人々は、窓をなくしたり奥に細長い家をつくるようになった。このように強制的に払わされている高い税に対して、良いイメージをもつ人は少ないと思う。私もできれば税を払いたくない。そこで、もしも税がなくなり払わなくて良い世の中になったら、どうなってしまうのか考えてみた。まず、警察や消防などの税金で成り立っている機関がなくなると、事故や事件が起きたときに、本来なら助けられた命が救えなくなってしまうのである。また、窓がないかと思つた。さらに、お金が集められないので、公共施設や道路などの国が管理している設備を、たてなおしたり修理することができなくなってしまう。そうすると使用する国民の中で争いが起こり、平和な世の中を築いていけなくなってしまうかもしれない。税は私たちのために使われていると改めて気づき、高いかもしれないがこれからも納めていこうという、前向きな気持ちへと変わった。また、みんなにも税金は常に自分たちのために納め、使われていることを忘れないでほしいと感じた。

このような、生活と深く関わっている税金について決めているのは、主に国民の代表である議員だ。その議員を選んでいるのは、有権者である私たち国民なのだ。つまり、投票で大きく左右されるので、よく考え信頼できる人へ票を投じなければならぬ。私は今まで、どんな人が立候補しているのかも知らなかったし、親と選挙会場へ行ったことすらもなかった。しかし選挙はとても重要なものだと知り、選挙の様子などを見てみたいと思つた。そして、十八歳になったら、その人に任せられるのかよく考え、投票したいと感じた。

ほとんどの人が、税金を嫌なものだと捉えがちだが、私たちの暮らしに欠かせない重要なものだと思う。全員が税金への理解を深めていくことが、平和な社会を築くことにつながるのではないかと感じた。